

12月4日

第2次由布市子ども読書活動推進計画 (案)



THE CABIN COMPANY

令和3年 月

目次

第1章 計画の策定にあたって

- 1 計画策定の趣旨 1
- 2 計画の位置付け・役割 2

第2章 第1次計画における成果と課題

- 1 総合成果指標の推移から見た状況 3
- 2 社会教育調査から見た状況 4
- 3 まとめ 8

第3章 基本目標・方針

- 基本目標・基本方針・具体的な方策 9

第4章 子ども読書活動推進のための方策

- 1 家庭(家読)・親子読書の推進 10
- 2 幼稚園・保育園(所)・こども園の
読書活動の推進 11
- 3 学校の読書活動の推進 12
- 4 市立図書館における読書活動の推進 ... 14
- 5 特別な支援を必要とする
子どもへの読書活動の推進 16

第5章 計画の数値目標



第1章 計画の策定にあたって

1 計画策定の趣旨

由布市では、平成27年4月に策定した「由布市教育振興基本計画」の中で、子どもたちが人生をより深く生きる力を身につけるために、5つの主要施策のひとつとして「未来の創造を担う子ども読書活動の推進」を掲げ、「第1次由布市子ども読書活動推進計画」と位置づけ、様々な事業に取り組んできました。この間の取組により、就学児童生徒の市立図書館の利用登録割合が向上し、読書習慣や貸出冊数が増加傾向になるなど一定の成果がありました。しかし、年度によって数値結果が大きく変化していることや、個々の取組を行ってきているものの、連携による取組が不十分であるという課題もあります。

また、スマートフォンをはじめとする新たな情報通信機器やサービスの急速普及により、子どもを取り巻く生活環境は大きく変わりました。幼児期からの読書習慣の未形成やメディアとの接触の低年齢化・長時間化が、子どもの生活習慣や読書習慣に大きな影響を与え、読書離れやコミュニケーション不足に繋がっているのではないかと懸念されています。

子どもの読書活動は、子どもたちが生きる力を身につける上で基礎となる、読む・書く・聞く・話す力を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を養うとともに、自らの世界観を広げることができます。また、多様な考え方に触れることで、広い視野を持ち、豊かな心を育むことができます。

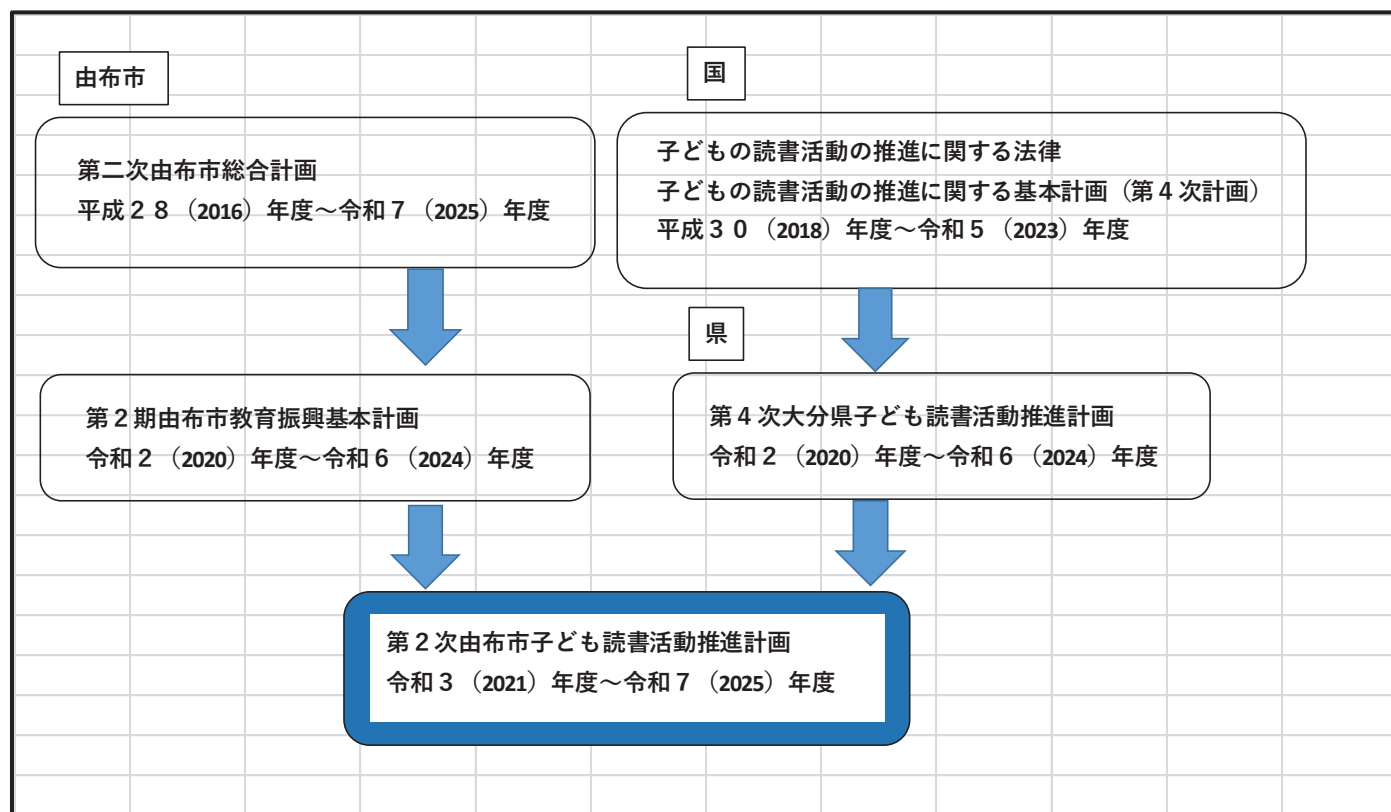
読書を通じて多くのことを学んだ子どもたちが、ふるさとと自己の未来を考えることができる“由布のひと”に成長するよう、大人も子どもも一緒になって「読書活動」を推進していく必要があります。

国においては、平成30年4月に第4次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」が策定され、大分県においても令和2年4月に「第4次大分県子ども読書活動推進計画～読書だいすき大分っ子の育成をめざして～」を策定しています。

本市においても、第1次計画の成果と課題を踏まえ、読書関係者が連携しながら同じ目標を持って取り組めるよう「第2次由布市子ども読書活動推進計画」を策定します。

2 計画の位置付け・役割

この計画は、子どもの読書活動の推進に関する法律第8条に基づき、国や県の計画を参考にしつつ、本市の実情に応じた子どもの読書活動を推進するための計画です。



3 計画期間

計画期間は、令和3年度から令和7年度までの5年間とします。

第2章 第1次計画における成果と課題

1 総合成果指標の推移から見た状況

第1次計画では、諸処の取り組みによる結果は、中高生世代の読書傾向に現れるとして、総合成果指標に3項目を設定しました。ここでは第1次計画期間中の指標の推移を、大分県平均、全国平均と併せて掲載しています。

(1) 平日1日当たり、家や図書館で10分以上読書をしている児童生徒の割合(%)

小学6年	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
	由布市	66.8	61.8	52.7	58.0	64.8
	大分県	64.4	63.2	61.6	66.2	69.0
	全国	64.2	63.5	63.3	66.2	65.7

中学3年	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
	由布市	48.2	44.5	40.0	53.0	44.2
	大分県	46.7	43.0	45.0	48.1	44.8
	全国	52.2	49.7	51.4	53.5	50.4

小学6年では、平成27年度では全国等を上回っているものの、それ以降は全国や大分県水準と比較すると低い状況にあります。中学3年では、県を上回っている年度があるものの、全国の結果と比較すると低い状況があります。

(2) 1ヶ月に3冊以上本を読む児童生徒の割合(%)

小学5年	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
	由布市	75.9	76.1	77.7	81.7	75.5
	大分県	74.1	73.7	77.9	79.7	78.2

中学2年	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
	由布市	43.5	36.4	54.4	50.3	59.1
	大分県	42.5	40.4	44.9	43.1	45.1

小学5年は、年度によって大分県水準を上回るところもありますが、令和元年度の結果では下回っています。中学2年では、平成29年度から大分県水準を上回って推移をしており、令和元年度は大きく伸びています。

(3) 読書が好きな生徒の割合(%)

中学3年	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
	由布市	57.1	63.3	59.9		66.4
	大分県	66.0	68.2	67.8		66.5
	全国	67.9	69.9	71.8		68.0

平成27年度より全国・大分県水準を下回っていましたが、令和元年度には大分県水準まで伸びてきています。

(1)(3) 全国学力・学習状況調査結果 参照

(2) 県学力定着状況調査結果 参照

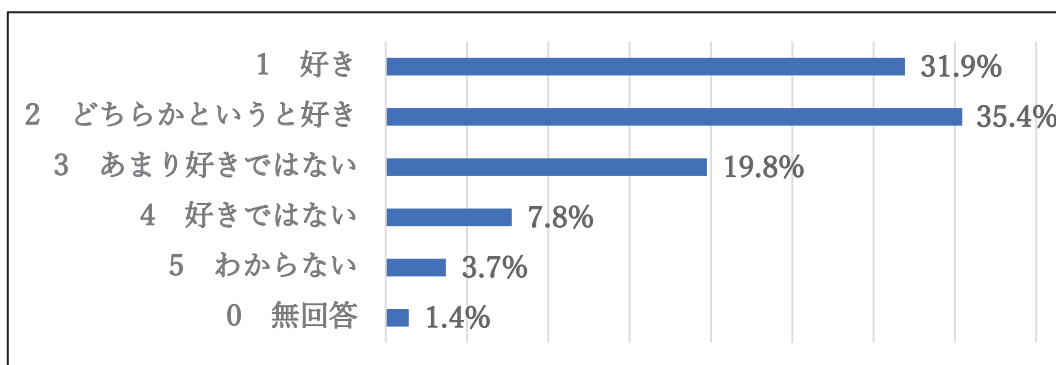
2 社会教育調査から見た状況

平成31年3月に実施した「社会教育調査」結果のうち、「読書活動」に関連する質問結果を抜粋して掲載しています。

無作為抽出により18歳以上80歳未満の市民1,500人を対象としてアンケート調査を実施し、567人から回答をいただきました。

(問28) あなたは読書が好きですか。

項目	人	%
1 好き	181	31.9%
2 どちらかという好き	201	35.4%
3 あまり好きではない	112	19.8%
4 好きではない	44	7.8%
5 わからない	21	3.7%
0 無回答	8	1.4%
合計	567	100%



「読書が好き・どちらかという好き」と答えた方が67.3%と、読書を好きと答えた方が多い傾向にあります。



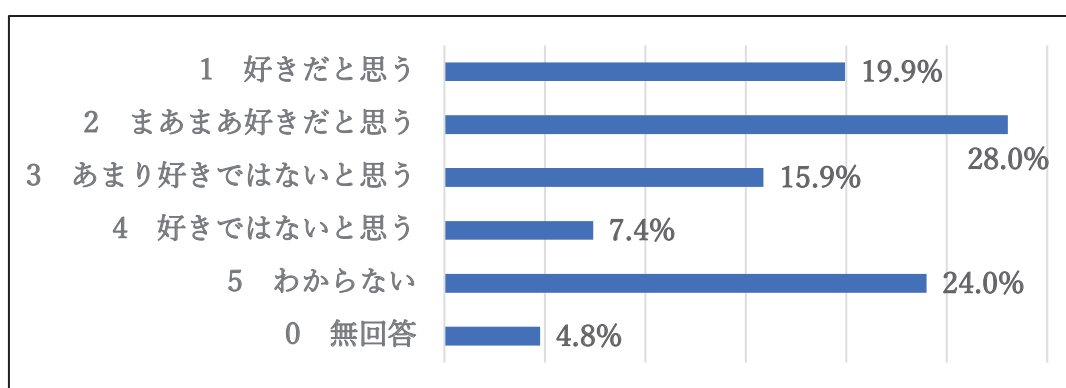
どんぐりまつり in summer



家庭教育講座（朗読会）の様子

(問 2 9) あなたの周りにいる子ども(概ね18歳以下)は読書が好きですか。

項目	人	%
1 好きだと思う	113	19.9%
2 まあまあ好きだと思う	159	28.0%
3 あまり好きではないと思う	90	15.9%
4 好きではないと思う	42	7.4%
5 わからない	136	24.0%
0 無回答	27	4.8%
合計	567	100%



「まあまあ好きだと思う」が28.0%で最も高く、次いで「わからない」が24.0%、「好きだと思う」が19.9%となっています。

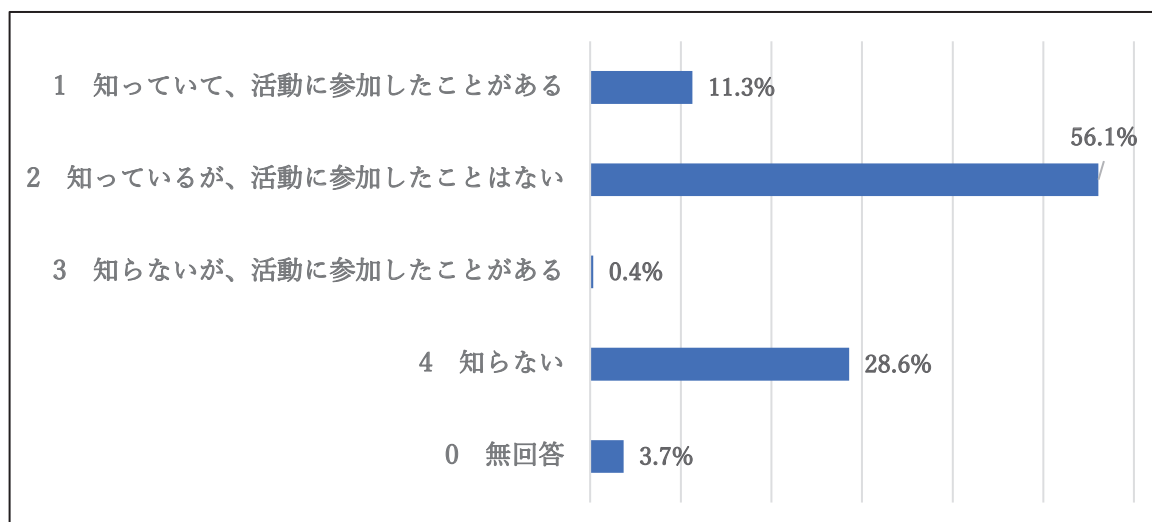
(分析) 大人と周りの子の読書嗜好の関係性

(回答者)	周りの子どもは読書 が好きだと思う	まあまあ好き だと思う	あまり好きではな いと思う	好きではないと 思う	分からない	無回答
自分は読書が好き	57	52	19	7	41	5
どちらかというと 好き	34	70	36	14	40	7
あまり好きではない	16	29	27	8	28	4
好きでない	2	7	4	11	17	1
わからない	3	1	4	2	10	1
無回答	1	0	0	0	0	7

回答者のうち、「自身が読書好き」と答えている方は、「周りの子どもは読書が好きだと思う・まあまあ好きだと思う」と答えている方が多いと言えます。

(問30) 子どもの読書の活動(読み聞かせなど)を知っていますか。

項目	人	%
1 知っていて、活動に参加したことがある	64	11.3%
2 知っているが、活動に参加したことはない	318	56.1%
3 知らないが、活動に参加したことがある	2	0.4%
4 知らない	162	28.6%
0 無回答	21	3.7%
合計	567	100%

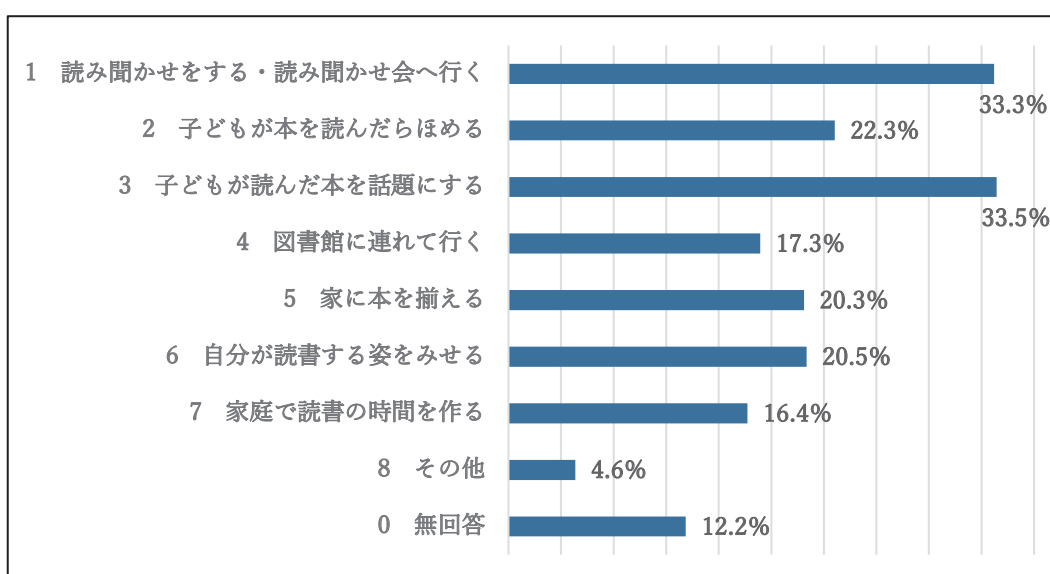


「知っているが、活動に参加したことはない」が56.1%で最も高く、次いで「知らない」が28.6%、「知っていて、活動に参加したことがある」が11.3%となりました。

男女ともに「知っているが、活動に参加したことはない」が最も多く、年代別では、20代を除いて「知っているが、活動に参加したことはない」が最も多く、実際に参加したことがある人は、30・40代と子育て世代に比較的多いことが分かりました。

(問 3 1) 子どもの読書について、家庭ではどのような配慮をしていますか。また、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

項目	人	%
1 読み聞かせをする・読み聞かせ会へ行く	189	33.3%
2 子どもが本を読んだらほめる	127	22.3%
3 子どもが読んだ本を話題にする	190	33.5%
4 図書館に連れて行く	98	17.3%
5 家に本を揃える	115	20.3%
6 自分が読書する姿をみせる	116	20.5%
7 家庭で読書の時間を作る	93	16.4%
8 その他	26	4.6%
0 無回答	69	12.2%
合計	1,023	



「子どもが読んだ本を話題にする」が 33.5%で最も高く、次いで「読み聞かせをする・読み聞かせ会へ行く」が 33.3%、「子どもが本を読んだらほめる」が 22.3%となりました。男性では「子どもが読んだ本を話題にする」・女性では「読み聞かせをする・読み聞かせ会へ行く」が最も多く、年代別では、20～50代は「読み聞かせをする・読み聞かせ会へ行く」が多く、60代以上になると「子どもが読んだ本を話題にする」が多くなっています。

3 まとめ

総合成果指標の推移を見ると、多くの項目で全国や大分県レベルを下回る結果となっています。しかし、1ヶ月に3冊以上本を読む児童生徒の割合(中学2年)や読書が好きな生徒の割合(中学3年)が伸びていることに関しては、少しずつではあるものの取り組みの成果が表れていると言えます。学校段階が上がるにつれて本を読む割合は減少しており、学校・家庭・地域の連携を深め、子どもに読書の意義を伝え、社会全体で読書活動の取り組みを進めていく必要があります。

社会教育調査結果では、「読書が好き・どちらかという好き」と答えた方が67.3%であるものの、「子どもの読書の活動(読み聞かせなど)」について、「知っているが活動に参加したことはない」と答えた方が56%、「知らない」と答えた方が29%となっており、取り組みについての認知度はあまり高くないと言えます。また、自身が読書好きである人は、周りの子どもも読書好きであると答える傾向があり、親や周りの大人の読書習慣や環境が子どもたちの読書活動にも影響を与える可能性があると言えます。

保育園・幼稚園・小学校・中学校を対象に実施した「子ども読書に関するアンケート」では、「市立図書館等に期待すること」の項目から、保育園・幼稚園では、読み聞かせ活動やおすすめ絵本・大型紙芝居の紹介や貸出、絵本コーナーづくりについての支援が必要とされていました。小・中学校では、調べ学習用の本の充実や団体貸出に対する支援や連携のための環境整備を必要としていることが分かりました。さらに、図書館の利用についての情報がまだまだ行き届いていない部分もあることが分かり、今後はさらなる情報発信や啓発も必要と言えます。

第3章 基本目標・方針

基本目標

大人から子どもへ～つなげよう読書の輪

基本方針

- 1 発達段階に応じた読書習慣の形成
- 2 子どもの読書への関心を高める取組の推進
- 3 子どもの読書に携わる関係者の連携強化

具体的な方策

- 1 家読（うちどく）・親子読書の推進
- 2 幼稚園・保育園（所）・こども園における読書活動の推進
- 3 学校における読書活動の推進
- 4 市立図書館における読書活動の推進
- 5 特別な支援を必要とする子どもへの読書活動の推進



第4章 子どもの読書活動推進のための方策

学校段階が進むにつれて本を読まない子どもが増えています。そのため早期からの読書習慣の形成と、発達段階に応じて子どもたちが読書に触れるきっかけづくりを行っています。

1 家庭（家読 **うちどく※1**）・親子読書の推進

子どもの読書習慣は、日常生活を通して形成されるものであり、子どもにとって最も身近な保護者は、読書の楽しさや大切さを伝える上で重要な役割を担っています。乳幼児期の読み聞かせから一人で読書できる児童・青少年期まで、保護者が子どものあらゆる成長段階において、子どもの読書活動に関心を持ち、積極的に関わり続けることが重要です。

保護者が自ら読書を楽しむことができるよう、読み聞かせの大切さや方法を学ぶ機会を提供し、家族で「うちどく」を楽しめるよう働きかけていきます。

具体的な取組

- 家庭教育講座の開催（読み聞かせ講座）
家庭教育講座の1回を「子ども読書活動推進」のための講座と位置づけ、読み聞かせに関する講座を開催します。
- 乳幼児健診時に「おすすめの絵本リスト」を配付
乳幼児健診時（1歳6ヶ月）に「おすすめの絵本リスト」を配付します。
- 読み聞かせボランティア・グループ※2**によるおはなし会の開催
各図書館を拠点として活動する読み聞かせボランティアによるおはなし会を開催します。
- 子育て支援事業の取組
「**子育てほっとクーポン※3**」を活用して読み聞かせ絵本の購入費用の助成を行います。

※1 家庭読書の略語。子どもを中心に家族で同じ本を読み、読んだ本の感想を話し合うなど、家族みんなで読書をすることで家庭のコミュニケーションを深めることを目的にした読書活動のこと。

※2 由布市立図書館（挾間）／どんぐり 庄内分館／秋桜の会
湯布院分館／このゆびとまれ

※3 大分県と各市町村において、子どもが生まれた家庭に子育て支援サービスに使えるクーポンを配付する取組のこと。

2 幼稚園・保育園（所）・こども園の読書活動の推進

幼児期に多くの絵本や物語に出会うことは、子どもの創造の世界を広げるだけでなく、言語活動の基本となるものであり、欠かせないものです。

市内の幼稚園・保育園（所）等では、朝・活動前・夕方などの時間で幼稚園教諭や保育士たちによる絵本や紙芝居の読み聞かせが日常的に行われるとともに、保護者や読み聞かせボランティアによる定期的な読み聞かせが行われるなど、活発に読み聞かせ活動が行われています。また園にある絵本の貸し出しを行ったり、絵本や図鑑をすぐ手にとれるような場所に置くなど、子どもたちが本を好きになるための様々な取り組みを行っています。

今後も継続して取り組めるように、市立図書館と連携を図りながら子どもたちが多くの絵本に触れることができるよう努めます。

具体的な取組

●読み聞かせの取組

先生たちや保護者・読み聞かせボランティアによる絵本や紙芝居の読み聞かせを行います。

●読書環境の充実

団体貸出制度※3を活用して、子どもたちが様々な絵本に触れる機会を増やします。また、園内に絵本コーナーを設けるなど、子どもたちが手に取りやすい工夫をします。

●「オススメ絵本」の紹介

市立図書館は、読んでもらいたい「オススメの絵本」を紹介するなど、積極的に情報発信をし、園関係者や保護者への啓発に努めます。



幼稚園での読み聞かせの様子

※3 詳細は14ページ

3 学校の読書活動の推進

学校においては、児童生徒が読書に親しみ、読書習慣を身に付けさせることが必要です。また、子どもの読書習慣を確立するためには、読み聞かせなどの受動的な読書から能動的・自発的な読書へと変わる小学校低学年から中学年における読書指導が重要であると言えます。

市内の小学校では、週に1回以上「朝読書」の機会を設けるとともに、月に1回程度、保護者や保護者等で結成された読み聞かせグループ、市内の読み聞かせボランティアなどによる読み聞かせが行われています。また、市内の中学校においても、「朝読書（キャリア読書を含む）」の時間を設け、学校文庫（移動図書館）の設置により、本を読む機会を創出しています。

学校図書館は本の貸借や調べ学習ができる場所であり、児童生徒の読書活動に重要な役割を担っています。小学校では、学校図書館司書を中心として、定期的に辞書引き大会やブックトーク※4、ビブリオバトル（知的書評合戦）※5、スタンプラリー、ビンゴ、ポップ作成などのイベントを開催し、児童が楽しんで読書に向かえるような取組を行っています。中学校では、学校図書館で教科書関連図書を生徒が検索しやすい工夫を行っています。

今後も学習や生活の中で気軽に足を運び、探している本が容易に見つけられる環境などの整備に努め、児童生徒と本の出会いの場としての学校図書館の環境づくりを推進します。

具体的な取組

●一斉読書等の読書活動の推進

朝読書など読書タイムを設け、日常的な一斉読書活動を推進することにより、自発的で継続的な読書活動に結びつくようにします。また、小学校においては、読み聞かせボランティアや保護者を積極的に活用した読み聞かせ活動を行います。さらに、中学校においては、週1回教職員が選んだ読みものの教材を読む機会をつくることで、生徒が職業や生き方を考えるキャリア読書を行います。

●各教科等における読書活動の推進

教科書教材との並行読書や、由布市が取り組む課題解決型の学びを展開する「由布学」の取組において、学校図書館を利用した学習活動を推進します。

※4 ひとつのテーマに沿って、何冊かの本をいろいろな角度から紹介し、本の楽しさを知ってもらうための手法。

※5 おもしろいと思った本を持ち寄り、5分間で本を紹介、2～3分間ディスカッションをする。全員の発表が終わったら、「どの本が一番読みたくなったか」を基準にチャンプ本を決める活動。

●レファレンスサービス

情報や資料を求めている利用者（児童生徒・教職員）に対し、自館または他館より相互貸借をした資料を提供します。

●読書行事の企画・実施

ブックトークやビブリオバトル、スタンプラリー、ビンゴなどの読書行事を企画・実施することで子どもたちの読書への関心を高めます。

●図書委員会・子ども司書の活用

児童生徒が主体的に学校図書館の読書行事に関わることで読書への関心を高めることができるよう、図書委員会の活動の活性化を図ります。また、積極的に子ども司書※6を活用して、子どもから子どもへ読書の楽しさを伝える取組を推進します。

●図書館見学、職場体験の実施

図書館の利用促進や読書への関心を高めるために、市立図書館と連携して図書館見学や職場体験を企画・実施します。

●学校図書館司書の適正配置

学校図書館を効果的に活用するために、子どもたちと本をつなぐ役割を担い、読書環境と学習環境の充実のために学校図書館司書の継続配置に努めます。

●学校規模に応じた蔵書の計画的な整備

「学校図書館図書標準」に基づき、学校規模に応じた蔵書の計画的な整備を行います。

●学校図書館司書相互の連携と研修機会の確保

司書部会において児童生徒の読書推進のための研究を行うとともに、必要な知識や情報を得るための研修を受ける機会を確保します。



小学校での読みきかせの様子



学校図書館でのポップづくり

※6 大分県と各市町村が共催で養成する読書リーダー。1年間の研修を経て、県から認定される。子どもから子どもへ読書の楽しさを伝える取組。

4 市立図書館における読書活動の推進

図書館は、地域の子どもの読書拠点として、様々な本との出会いを育む場であり、多様な資料を使って調べる力や考える力を鍛えることができる場でもあります。由布市立図書館は、挾間・庄内・湯布院の各地域に3館（うち庄内・湯布院の2館は分館）あり、それぞれ公民館に併設されています。由布市立図書館（挾間）は、市内の図書館の中核的な役割を担うとともに、分館2館と連携しながら読書活動の推進に取り組んでいます。また、庄内分館は平成30年12月に新図書館となり、湯布院分館は令和3年3月に湯布院地域複合施設の中に新たな図書館として誕生しました。

引き続き、子どもや保護者のみならず、学校関係者や読書ボランティア等に広く対応できる地域の読書相談窓口として、子どもに関わるすべての大人の支援に努めます。

具体的な取組

●情報の発信と読書推進の啓発

図書館だよりをはじめとして、市報やホームページ、SNSを活用しながら情報を広く届けるとともに、対象者に合わせた効果的な情報発信を行います。

●児童コーナーの充実

たくさんのよい本に出会えるように蔵書を充実させるとともに、興味をひくコーナーづくりに努めます。

●図書館イベントの企画・実施

子ども読書の日（4月23日）や子どもの読書週間を契機とした特別企画を実施することで、読書推進の機運を高めます。

●市立図書館の利用促進

小学校入学時に市立図書館貸出カードと図書通帳を小学校と連携して配付し、いつでも図書館の利用ができる環境を整えます。

●読み聞かせボランティアの活動支援

市立図書館で活動する読み聞かせボランティアに対して、活動がさらに発展・充実するよう支援に努めます。

●ブックリサイクル（えほんリサイクル）

市立図書館で役目を終えた本や、各家庭で卒業する絵本を回収し、希望者へ配付することで良書を有効活用し、「家に本のある」環境づくりを支援します。

●図書館見学・職場体験への受け入れ

図書館の利用促進や読書への関心を高めるために、学校図書館と連携して図書館見学や職場体験の受け入れを積極的に行います。

●団体貸出・**レファレンスサービス※7**

市内の子どもと関わる保育園・幼稚園・団体へ団体貸出制度の利用を促進す

ることで、読書環境と活動の支援をします。また、県立図書館や県内の公立図書館との相互貸借サービスを積極的に活用することで、ニーズに合った幅広い分野の図書を選定し、調べ学習のためのレファレンスサービスに対応していきます。

(団体貸出日数・冊数)

図書館名	種類	市内学校団体	市内一般団体
由布市立図書館 (挾間)	書籍	50冊・2ヶ月	30冊・2ヶ月
	大型絵本・紙芝居	2冊・7日	2冊・7日
庄内分館	書籍	20冊・2ヶ月	20冊・2ヶ月
	大型絵本・紙芝居	2冊・7日	2冊・7日
湯布院分館	書籍	30冊・2ヶ月	20冊・2ヶ月
	大型絵本・紙芝居	2冊・7日	2冊・7日

●子ども司書の養成

図書館の仕事を学び、さまざまな読書活動を体験・実践しながら、学校や地域の図書館で、みんなに読書の楽しさや大切さを広める「子ども司書（読書リーダー）」を養成します。

●関係者との連携

子どもの読書活動を促進する環境を整えるために、学校や読書関係者・関係課と情報交換・情報共有を行い、連携を強化します。

●研修機会の確保

子どもや読書関係者のニーズに適切に対応するため、児童サービスの能力向上に必要な専門的知識や情報を得るための研修を受ける機会を確保します。

●「子ども読書活動推進会議」の充実

現場で子どもに関わる関係者同士がこれまで以上に活発に意見交換できる場となるように、委員構成を検討するなどし、会議の充実を図ります。

●ならねっ子まつりを通じた読書喚起

ならねっ子まつりを開催することで、由布市の先人を知り、児童文学作品に触れるきっかけをつくり、郷土愛の醸成と読書への興味を喚起します。

※7 仕事や日常生活、研究をする上で、何か調べものをする利用者に、図書館司書が必要な資料や情報を入手し、お手伝いするサービス。

5 特別な支援を必要とする子どもへの読書活動の推進

「**視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）※8**」が施行されたことにより、障がいの有無に関わらず、子どもが自由に読書活動することができる環境を整えていく必要性はより一層高まっています。障がいに応じた資料の収集・提供に努めるとともに、利用しやすい環境づくりを進めます。

具体的な取組

- 大分大学医学部付属病院 小児科病棟「ひまわり文庫」への団体貸出
奇数月に（年6回）毎月50冊の貸出を行うことで、子どもたちがいつでもどこでも読書に親しめる環境をつくれます。
- 図書の収集と利用促進
大活字本や点字付き絵本、**DAISY(デイジー)図書※9**、**LLブック※10**など障がいのあるなしに関わらず読むことのできる本を整備するとともに、周知や利用促進を図ります。

※8 令和元年6月28日に公布、施行された法律。障がいの有無にかかわらず全ての国民が等しく読書を通じて文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現に寄与することが目的

※9 Digital Accessible Information Systemの略。デジタル録音図書のこと。視覚障害等のために普通の印刷物を読むことができない人のためのもので、音声のみの音声デイジーと、音声を聞きながらテキストや画像を同時に見ることができるマルチメディアデイジーの2種類がある。

※10 知的障がいのある人や母語を異にする人など読むことが苦手な人のために、読みやすいように工夫して作られた本のこと。

第5章 計画の数値目標

指 標 名	目標指標		
	基準値 (令和元年度)	中間年目標値 (令和5年度)	最終目標値 (令和7年度)
小学校児童の学校図書館 平均貸出冊数 (学校図書館利用実績)	106.5 冊	110 冊	120 冊
中学校生徒の学校図書館 平均貸出冊数 (学校図書館利用実績)	21.3 冊	23 冊	25 冊
1ヶ月に3冊以上本を読む 児童生徒の割合 (県学力定着状況調査・教育 振興基本計画、重点戦略プ ラン指標)	小5 75.5%	81%	83.4%
	中2 59.1%	62%	65%
読書が好きな生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	中3 66.4%	68%	70%
将来への展望 将来の夢や 目標をもっているか (当てはまると回答した割合) (全国学力学習状況調査・教 育振興基本計画指標)	小6 64.4%	71%	73%
	中3 46.9%	65%	70%
就学児童生徒の市立図書館 利用登録割合	91%	95%	97%
就学児童生徒の市立図書館 平均貸出冊数	8.5 冊	10.7 冊	12 冊
子ども司書養成数(累計)	30 人	64 人	80 人
読み聞かせ会・講座などの 参加者数(延べ人数)	552 人	560 人	570 人
読み聞かせボランティア数	30 人	34 人	35 人